

里山文化 I

里山の聞き書き

～自然とかかわって暮らしを築いてきた人の声に耳を傾け、共感する～

日時：平成25年10月6日（日） 10:00～15:00

講師：清藤 奈津子（山里文化研究所 代表理事）

概況



「山里の聞き書き ～自然とかかわって暮らしを築いてきた人の声に耳を傾け、共感する～」

山里文化研究所 代表理事 清藤 奈津子

山里での生活は、昔の日本の暮らしそのものです。昔の農山漁村には、共同（結い）の仕事（田植え、稲刈り、屋根葺き、用水管理）、共有の土地（採草地、人工林、薪炭林、用水、ため池）、村の人と共に感謝し、共に暮らすことを確認する場（＝祭り）が根付いていました。

山里では、そんな暮らしが現在でも行われています。山里の暮らしの特徴としては、

- ①自然の中から何でも持ってきて生活する
- ②自然を糧に生きる
- ③先祖代々の種を絶やさないようにする
- ④何でも自分で作る（造る）

といった、いわゆる「自給自足」の生活を営んでいるのです。

街で生活する我々は、物を「買う」という行動を通して手に入れて生活しています。「生活を買っている」という表現もあながち間違いではないでしょう。

また、山里の暮らしをしている人たちは、ほとんどが80～100歳の高齢の方々です。このままでは、山里の暮らしや文化が途絶えてしまいそうです。

そういった状況の中で、「山里の聞き書き」ということを行っている人たちがいます。これは、山里で普通に生活を営んでいる方に、若者が出向いて山里で生活する人の「生の声」を聞き、聞いたことをそのまま本にして、広く多くの人に知ってもらうという活動です。この活動を行うのは、若者がやるからこそ意味があります。若者が普段は触れることのない山里の暮らしの話を、山里で生活している高齢の方から、実際に会って聞くことで、生活の感じを少しでも想像しやすくなります。また、本に執筆する際には、聞き取ったことには手を加えず、話した言葉全てを、そのまま書くことで読み手にも雰囲気伝わりやすくなります。

こうした活動をしていき、山里の暮らしを絶やさないようにすることも、日本の文化を守っていくという意味でとても大切なことです。